

変わやがトカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

一隅を照らす十島の教育

六月～「灯根語」に託して

十島村教育長 原口 英典

今日から六月。この便りが届くころは、もう七月になっているのでしょうか。

六月は、更衣の時期とか。わが村の各学校にあっては、疾うの昔に夏向きこもがえの制服や私服に着がえての学校生活や日常生活を送っているものと思われま

す。緑濃き木々や夏草とともにある通学路から通ってくる子供たち。

出迎える先生方にとっては、白や涼しげな色の服をまとった子供たちの姿は、まぶしい表情ともなり、また校門のあたりまでをもまぶしくしてしまう光景と映るのかもしれない。

<校門のあたりまぶしき更衣> (徳永真弓)

ところで、子供たちの教育をつかさどる職を選んだ私たち。そして、鹿児島県の教職員として選ばれた私たち。その私たちの、まず、人間として、そして、子供の前に立つ職業人として、どうあるべきかという根源的な「ありよう」が問われているきつこん昨今であります。

そんな中であって、しかしながら、誤り多き存在が人間でもあります。また、未熟なるを自覚しながら、それでも未熟なる子供の前に立つのも、弱き存在としての人間教師であります。

弱き、そして、過ち多き人間だからこそ、人間教師には「生き方の根っこ」づくりが求められているのでありま

しょう。「わが子の先生」だからこそ、そして「人生の先達」だからこそ、確かな生き方の根っこを、先生に求めるのは、当然といえば当然なのでしょう。

十島村の学校に職を得ている私たちは、そこで、その根っこづくりになるものを、他から与えられるのではなく、自分たちで差し出しあい、編集し、共有することで、自他の確かな根っこを張り巡らしたいと取り組みました。

そして、困難やつまずきや誘惑にぶつかったとき、自分を奮立たせたり、あるいは、ブレーキをかけてくれたり、時には、ハッと目覚めさせてくれたりするそのような「何か」を、改めて自分の中に引き寄せ、同じ職場で働く者同士、その具体的なものを差し出し、共有しあうことで、自他を深め、守っていき

そんな願いのもと編集していただいたのが、名付けて「灯根語」(己の生き方の根っこを灯す一語集)。

だれが作ったのでもない。自分の生き方の拠り所を差し出しあいながら、自分のために、そして自分たちのために編集したものだからこそ値打ちがあり、繰り返し、味読し、耽読し、自分に、また仲間みどくに思いを巡らしながら、生き方の根っこをより深くしていくバイブルとしていけたらと願っています。

そう願いつつも、やっぱり弱い、醜い心の持ち主の自分がひょっこり顔を出してくるのも事実です。今日もそんな自分に嫌気がさし、やや自己嫌悪に陥っている自分がいます。理由ははっきりしています。

そんなときです。学校から送っていただいた「灯根語」をめぐり、そのページの文言を口ずさむと、書いた人の顔が想像でき、ふっと自分を取り戻すことができました。

自分にとってこの「灯根語」は、そんな意味で「生き方」のよき拠り所ともなっていることを実感しているところでもあります。

<大岩に根を下したる夏木かな> (高浜虚子)



【平成24年度ファミリー劇場開催計画】

平成24年度のファミリー劇場開催計画を紹介します。都合により変更する場合は、連絡調整します。

- 口之島: 9月15日(土)日本舞踊 谷口紀子
- 中之島: 9月22日(土)一人漫談ショー 深川真里
- 平島: 9月15日(土)島唄 坪山豊
- 諏訪之瀬島: 11月10日(土)島唄他 永志保
- 悪石島: 9月15日(土)島唄 川畑さゆり
- 小宝島: 10月13日(土)クラシック、童謡他 伊地知元子

○宝島: 9月16日(日)島唄 築地俊造

【第2回村校長研修会開催】

第2回村校長研修会は、6月25日(月)村役場会議室において5人の校長先生が出席して開催され、研修・協議がなされました。主な内容は、次のとおりです。

- 1 教育長指導・講話
- 2 教育委員会事務局事務連絡等
- 3 協議
- (1) 小学校連合修学旅行反省 (5) 当面する課題
- (2) 中学校連合交流学习反省
- (3) 十島村教育研究大会
- (4) 村TV会議合同研修計画

【村文化財保護審議会開催】

十島村文化財保護審議会は、平成24年6月8日(金)に6人の審議委員の出席を得て、役場会議室において開催されました。

教育長のあいさつに引き続き、「本村の文化財の現状及び保存・活用等の考え方」について協議されました。

【水難事故防止運動強調週間】

実施期間 : 7月21日(土)～8月31日(金)
 スローガン : みんなでめざそう水難事故ゼロ!
 泳ぎに行くときは、保護者(大人)と一緒にいく。
 魚釣りにいくときは、一人ではいけない。
 泳ぐときは、決められたところで泳ぐ。
 おぼれている人をみつけたときは、大声で知らせる。

【転落事故防止に最善を!】

校舎や施設、山、海、樹木、堤防、港等からの転落事故防止に努めましょう。

【食中毒予防を!】

暖かい季節を迎えました。食中毒の予防に努めましょ

- 食中毒菌を 付けない(十分な手洗い,食材の洗浄,調理器具の洗浄)
- 増やさない(冷蔵・冷凍保存,調理は迅速に,早く食べる)
- やっつける(十分な加熱,<75度1分以上>)

【子どもたちの作品】 (南日本新聞「若い目」<H24.5.29>より)

きんかん日しょく
 宝島小学校 1年 寺田 碧海
 きょうは、きんかん日しょくがあるので、わたしは6じぐらいにおきました。おきたときは、くもっていたので、「みられないな。ちょっとざんねんだな」とおもいながら、あさごはんをたべていました。
 すると、「わあ、すごい。あおみ、きてごらん」。パパのおおきなこえがしたので、「げんかんへはしりました。そとは、はれてたいようがみえました。とつても、うれしくなりました。
 かぞくで、まえごもりこうにいきました。みなには、たくさんのおひとがきていました。「あおみもはやくみよう」と、わたしは、にしょくグラスをもってみにいき

ました。
 そらは、はれたり、くもったりしましたが、にしょくは、きれいにみえました。ずっとみていると、たいようのひかりがきれいに繋がっていきました。わたしは、なんどもなんどもみえました。
 しばらくみていると、あまぐもがまた、かかってきました。そして、たいようがみえなくなりました。くもったけれど、にしょくのときは、はれてみられたのでうれしかったです。てれびきょくのいんたびゅーで、「きれいにみえました。ゆびわをうえからみたようでした」とこたえました。

【子供のうた】 (南日本新聞「子供のうた」<H24.5.30>より)

魚
 宝島小学校 3年 飯田 輝星
 海はきれい みんなも魚つりをした
 海には魚がいる みんなも大きい魚がつれた
 ぼくは魚つりをした むずかしい
 大きい魚がつれた でも
 おもしろい

十島村の小・中学校からのメッセージ 口之島小・中学校

教頭 高橋 勉
 口之島への赴任が決まったその日、以前、十島で教鞭をとったことのある先生から連絡がありました。その第一声は、「よかったね。うらやましい」という言葉でした。それまで、生活や小中学校での授業のことなどで悩んでいた自分が嘘のように安心できたことをよく覚えています。実際に赴任してみて、すばらしい自然と人情の深い島の人々、そして、何よりも、大歓迎して迎えてくれた子どもたちといっしょに多くのことを学び、多くのことを体験し、かけがえのない貴重な宝物になりつつあります。

島での生活については、生協での販売やインターネットでの買い物ができることでほとんど不自由なく生活できます。また、単身で赴任したので、食事については心配していたのですが、いざ、生活してみると、新たな料理などに挑戦し、とても楽しい食生活ができます。

極少数(小6人,中3人計9人:うち教員の子も4人,山海留学生1人)である本校では、個に応じた授業での学力向上や島の豊かな自然の中でしか味わうことができない海ガメと出会うことができる海での水泳学習やリーフの入江を活かした追い込み漁、ふれ合い農園での稲作や野菜栽培などの農業体験、子どもたちと一緒に汗を流しながら、師弟同行の教育活動が充実しています。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

子どもたちと常に共にいることができるこの島での教師としての姿は、教師としての喜びや楽しさ、そして、つらさを実感できると思います。本校では、この島を「架け橋の島」と、よく表現します。口之島での教職員としての経験は、いろいろな人やいろいろな事との繋がりを創ることができる宝物のような体験ができます。口之島の雄大な前岳の麓で純朴な子どもたち一人一人が目を輝かせながら、赴任してくる先生を待っています。